

荒地

それは閃く秩序の美的なうつろいであり、
時間のかけらを照らす東の間の出会いなのだ*

「動いている庭」を
メインテーマとした
第8回恵比寿映像祭にて
初上映

この惑星は、庭とみなすことができる— パリで行われた展覧会「惑星という庭」で30万人を魅了したフランスの庭師ジル・クレマン。彼は、パリのアンドレ・シトロエン公園の庭やケブランリー美術館の庭をつくったことで知られ、同時に、その背景にある思想が注目を浴びてきた。

クレマンは、講演会のために、2015年の冬に初めて日本を訪れた。計3回開催された講演会は、それぞれ彼の中心的な概念である「動いている庭」「惑星という庭」「第三風景」をめぐるものである。

たとえば、「動いている庭」。そこでは、草や木が自然の遷移の作用として移動し、その移動のダイナミズムの中で庭が構成されていく。それは自然なのか、文化なのか？ 自然に寄り添い、かたちづくられ、変化し続ける庭は、従来の自然と文化を截然と切り離す二分法に基づく思考の再構成を促すものである。

日本各地を視察するクレマンの中心となる案内人は、彼の著作『動いている庭』を翻訳した庭師の山内朋樹と日本庭園を研究するエマニュエル・マレスである。このふたりと共に、クレマンは日本の庭を訪れ、日本の庭師と交流を深める。果たして、彼は日本の自然や文化に何を見出すことになるだろうか。

「動いている庭」、クレマンの自宅の庭には、その原型がある。クルーズ川に面した広大な庭の中を歩きながら、彼は「谷の庭」や「野原」と名付けられた場所を案内する。多様性に富んだ庭もさることながら、自ら建てた家に太陽光発電を設置し無駄に電気を使用しないことや、自宅の畑で採れた野菜で食事することなど、彼の生き方から私たちが学ぶことは多いだろう。すべては、この場所から始まったのである。

できるだけあわせて、なるべく逆らわない— これは、クレマンの庭師としての基本的な態度である。この言葉にそってつくられた本作は、日本各地を訪問するクレマンと、彼の自宅の庭をロングショットで記録した民族誌的な映像である。クレマンの行為を長回して撮影する中で、撮影者がカメラになり、そしてそれを通して撮影者は被写体と呼吸リズムを同調させる、呼応するようにクレマンも何か新しい輝きを持った存在になるだろう。



ジル・クレマン Gilles Clément について

1943年生まれ。庭師、修景家、小説家など、数多くの肩書きをもつ。植物にとどまらず生物についての造詣も深く、カメルーン北部で蛾の新種(Bunaeopsis clementi)を発見している。庭に植物の動きをとり入れ、その変化と多様性を重視する手法はきわめて特異なもの。代表的な庭、公園に、アンドレ・シトロエン公園(パリ、1986-98年)、アンリ・マティス公園(リール、1990-95年)、レイヨルの園(レイヨル=カナデル=シュル=メール、1989-1994年)、ケブランリー美術館の庭(パリ、2005年)などがある。おもな著作として、庭園論に『動いている庭』(1991年)、『惑星という庭』(1999年)、『第三風景宣言』(2004年)。小説に『トマトと旅人』(1997年)ほか。

監督 澤崎 賢一 Kenichi Sawazaki

1978年生まれ。アーティスト/映像作家。知性化され、ステレオタイプ化された関係から解放して、世界とのより直接的な相互関係に誘う映像作品の制作を行っている。近年、研究者や専門家に密着しながら世界各地の多様な自然文化を記録し、映像作品を制作。初めて制作した長編ドキュメンタリー映画『動いている庭』が「第8回恵比寿映像祭」にて初公開。主な展覧会に個展『Linguistic Montage』(MAXXX - Project Space, シェール、スイス、2015年)など。

生はノスタルジーを寄せ付けない
そこには到来すべき過去などない*

「動いている庭」
公式サイト

garden-in-movement.com



*ジル・クレマン『動いている庭』山内朋樹訳(みすず書房、2015年)



動いている庭 Le jardin en mouvement

2016年 | 日本・フランス | 85分 | HD | 日本語字幕

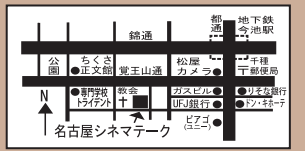
監督・撮影・編集・製作：澤崎 賢一 / 企画・製作・字幕翻訳：エマニュエル・マレス / カラリスト：畑谷 昌江 / 撮影協力：矢野原 佑史 / 音響調整：倉貫 雅矢 / アドバイザー：山内 朋樹 / フライヤー / カタログデザイン：和出 伸一 / 企画協力：総合地球環境学研究所、みすず書房 / 配給：ボタニカルスタジオ

2/13(土)~2/19(金) 16:20

前売券 1500円 ※当館窓口、名古屋市内の一部プレイガイドにて
(当日券 一般 1700円 大学生 1400円 シニア 1200円)
※登壇者は都合により変わる場合があります。
日時・場所：2021年2月19日 18時30分~(開場 18時00分) 今池ガスビル7F ダイアモンドルーム (会費制お一人様1500円・会費は当日現金にてお支払いください。)
来場者定員約50名・事前申し込み制(定員になり次第締め切らせていただきます。なおご来場になられる際には、時節マスクの着用をお願いします。)

名古屋市千種区今池1-6-13
今池スタービル2F
<http://cineaste.jp>

名シネマテーク
地下鉄今池駅・UFJ銀行西180m tel.052-733-3959
企画：DYMYS(大虫)+I / 協賛：株式会社イケガミ



【関連イベント：座談会「動いている庭」について考える】

登壇者(予定)：糟谷 謙氏(庭園デザイナー)、金子達郎氏(造園家)、金子周代氏(造園家)、大野 暁彦氏(名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 講師)

※登壇者は都合により変わる場合があります。

日時・場所：2021年2月19日 18時30分~(開場 18時00分) 今池ガスビル7F ダイアモンドルーム (会費制お一人様1500円・会費は当日現金にてお支払いください。)

来場者定員約50名・事前申し込み制(定員になり次第締め切らせていただきます。なおご来場になられる際には、時節マスクの着用をお願いします。)

問い合わせ・
申し込みはこちらへ
DYMYS(大虫)+I
<http://modelitallsmall.com/le-jardin-en-movement>

